

## 東北大・名大・京大など、 難関国立大の「前期集中型」募集激増！

千葉大・東京工業大・信州大・都留文大など、  
国公立8大学がAO入試を新規実施

旺文社 教育情報センター 平成18年9月

新課程入試2年目に当たる19年入試の『入学者選抜要項』が、先ごろ各国公立大から発表された。

国公立大では18年から分離分割方式の募集人員分割の弾力化が本格的となっているが、19年は難関国立大や医学部を中心に「前期集中型」募集が激増し、一般選抜における前期：後期の募集人員比率は78：22と、前期枠は過去最高を更新。その一方で、推薦・AO入試の新規実施校が増え、選抜方法の多様化や評価尺度の多元化も拡大している。

### 19年の受験生数予測

#### 大学受験生数は、1万9千人減の67万2千人に！？

ここ数年の18歳人口・高校卒業者数の推移をみると、12年～14年の下り階段の“踊り場状態”を経て、15年～18年は減少率3%程度であったが、19年は2%減とやや緩やかな減少が見込まれる。

大学への進学動向をみると、経済の回復基調が唱えられている一方で、経済的な格差社会の拡大が指摘されている中、専門学校等から大学への転向の高まりなどで、18年の現役受験生は約8千人(前年比1.4%)増の58万6千人となった。しかし、浪人の大学受験生数は17年より1万7千人(同14.1%)の大幅減で、10万4千人だった。

こうした大学受験動向は来年入試にも大筋では引き継がれるとみられ、19年の大学受験生数(実数；浪人含む。高等学校卒業程度認定試験<以下、高認>合格者等を除く)は、18年より1万9千人(2.7%)減の67万2千人程度と予測される。

### 一般入試 センター試験

リスニングの利活用ややアップし、国立大97.6%、公立大91.9%。  
5教科7科目以上は国立大9割、公立大4割でほぼ定着の様相。

#### <セ試の出願予測>

19年入試で新たにセンター試験(以下、セ試)を利用する国公立大は、17年10月開設で18年4月から学生受け入れとなった国立の筑波技術大・産業技術・保健科学(視覚・聴覚障害者対象；18年はセ試を課さなかった)、及び18年新設でセ試を課さない別日程入試を行った公立の札幌市大・デザイン・看護、名寄市大・保健福祉である。

ところで、19年のセ試志願者数(浪人、及び高認合格者等含む)は、大学受験生数減が予測される中、セ試現役志願率のアップ傾向、私立大セ試利用入試の拡大と人気などを勘案すると、18年より約2万6千人(前年比4.7%)少ない52万5千人程度とみられる。

#### < 試験日程 >

19年セ試は、18年10月2日(月)から10月13日(金)まで出願受付が行われ、19年1月20日(土)・21日(日)の両日に本試験が実施される。正解等は、1月20日・21日のそれぞれについて、当日の試験がすべて終了した後(試験当日の夜になる模様)、大学入試センターのホームページ等で発表される予定である。平均点等の中間発表は1月24日(水)、得点調整実施の有無の発表は1月26日(金)の予定。追試験は、1月27日(土)・28日(日)に行われる。

#### < 受験教科・科目 >

##### セ試の出題教科・科目

18年からの新課程セ試では、英語にリスニングテストが導入された他、国語が1科目に、理科は新科目(理科総合A、理科総合B)に加え、物理・化学・生物・地学についても再編されるなど、旧課程時の6教科32科目から6教科28科目の出題に変わった。

##### 英語リスニングテストの利活用

セ試英語の受験者は全員、リスニングテストが必須となっている。大学には筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)のそれぞれの得点が大学入試センターから提供されるが、外国語の他の科目(200点満点)との換算方法や配点の割合なども含め、リスニングテストを合否判定に利用するか否かは、各大学・学部(学科)によって対応が異なる。

##### 約95%の大学が利用

英語リスニングテストについては、18年の実施結果を受け、利用大学・学部はさらに増加した。東京海洋大と山梨県大、そしてセ試新規参加の筑波技術大(保健科学のみ)・札幌市大・名寄市大が新規利用に踏み切ったため、19年一般入試では国公立大の94.9%(国立大の97.6%、公立大の91.9%)がリスニングテストを合否判定に利用することになった。また、既に一部の学部で利用している大学でも、弘前大-医<医>/京大-総合人間/大阪府大-生命環境科学・理/兵庫県大-理の各学部・学科で新規に利用する。

一方、セ試の英語リスニングテストを全学で利用しない大学は、国立大では東大・滋賀医大の2大学(滋賀医大は推薦のみに利用)、公立大では群馬県健康科学大・前橋工科大・長野県看護大・奈良県大・香川県保健医療大の5大学(会津大は外国語を課さない)に留まる。また、次の大学では一部の学部・学科で利用しない。以下、(前)は前期、(後)は後期、(中)は公立大中期をそれぞれ表す。

国立大は、筑波技術大-産業技術(前)/千葉大-文<行動科学>(前・後)/鳥取大-農<獣医>(前・後)/島根大-法文<社会文化>(前・後)、生物資源科学<生命工以外>(前・後)、医<医>(前)/九大-理<数学>(後)。公立大では、都留文大-文<社会、比較文化>(前・中)/山梨県大-看護(前・後)/京都府大-人間環境<食保健、環境デザイン>(前)/岡山県大-デザイン<デザイン工>(前)/尾道大-芸術文化<美術>(前・後)/高知女大-看護(前・後)、社会福祉(前・後)/熊本県大-文<日本語日本文>(前・後)。

### リスニングテストの配点

英語の配点(素点)は前述したように 250 点満点となるが、他の外国語 4 科目は筆記試験のみの 200 点満点で、素点の段階で両者の間に格差が生じる。そのため、多くの大学・学部では「筆記 200 点・リスニングテスト 50 点を 200 点に換算」(80%に圧縮。筆記：リスニングテスト = 4 : 1 に配分)している。例えば、外国語 200 点であれば筆記 160 点、リスニングテスト 40 点、150 点であれば筆記 120 点、リスニングテスト 30 点となる。

例外は、弘前大 - 教育(筆記 150 点、リスニングテスト 50 点)や愛知県芸大 - 音楽(筆記 180 点、リスニングテスト 20 点)など、一部に限られる。

### 筆記試験との比較

信州大 - 人文(前・後)、教育<理数科学教育>(前) / 下関市大 - 経済(前・中)では、筆記試験のみ(200 点満点)と、筆記試験 + リスニングテスト(250 点満点を 200 点満点に換算)の得点を比較し、高得点の方を採用する。

### 学力低下対策とセ試「7 科目化」の動き

#### セ試 5 教科 7 科目以上を課す大学・学部

19 年にセ試 5 教科 7 科目以上を課す大学・学部数は、国立 77 大学 341 学部、公立 32 大学 62 学部の合計 109 大学 403 学部で、18 年より 1 学部増えている。対象となる募集人員は国立大 74,286 人(入学定員に対する割合 77.3%)、公立大 6,165 人(同 24.5%)で、全体としては 80,451 人(66.4%)となり、18 年より 160 人減少した(表 1・2 参照)。

#### 国立大の動き

国立大学協会(以下、国大協)は、学生の学力低下対策の一環として、国立大志願者に対し、16 年から原則としてセ試 5 教科 7 科目(国大協は地歴と公民を合わせ 1 教科<社会>として表示)を課すべきだと提言。

各国立大ではこれを受け、5 教科 7 科目以上を課す大学は、15 年の 53 大学(全国立大の 57.0%)から 16 年には 72 大学(同 86.7%)、17 年には 77 大学(同 92.8%)へと急増した。18 年は「2 大学増・2 大学減」で 17 年と同じ 77 大学(同 93.9%)、19 年は 18 年新設の筑波技術大が 3 科目以下のため、やはり 17 年と同じ 77 大学(同 92.8%)となった。セ試 7 科目を課さない国立大は、筑波技術大・東京医歯大・東京外語大・東京芸大・大阪外語大・鹿屋体育大の計 6 大学だけで、国立大では大学単位でみる限り、セ試の 5 教科 7 科目以上が 9 割を超え、定着したといえる。ただし、募集人員ベースではわずかに減少(503 人減 : 0.7%減)している。

#### 公立大の動き

公立大で 5 教科 7 科目以上を課す大学は 16 年 19 大学(全公立大の 26.0%)、17 年 28 大学(同 38.9%)、18 年 32 大学(同 44.4%)と徐々に増えてきた。19 年は 18 年新設の札幌市大・名寄市大に 5 教科 7 科目を課す学部・学科がないため 32 大学(同 43.2%)に留まり、大学単位では 4 割超でほぼ定着の様相だ。ただ、募集人員ベースではやや増加(343 人増 : 5.9%増)し、公立大の「7 科目化」は国立大に比べ緩やかではあるが進行している。セ試 7 科目は特に文系受験者に負担増となることから、「7 科目化」の動きはまず国立大理系の前期日程を中心に進み、後を追う形で文系、後期日程、そして公立大へ浸透していったといえる。

## セ試の受験パターン

19年セ試で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図1に示した。

国立大では5教科以上を課す学部が圧倒的に多いが、公立大では3、4、5教科に分散している。国立大を中心とした5教科7科目以上の編成は、次の3タイプに類型化される。

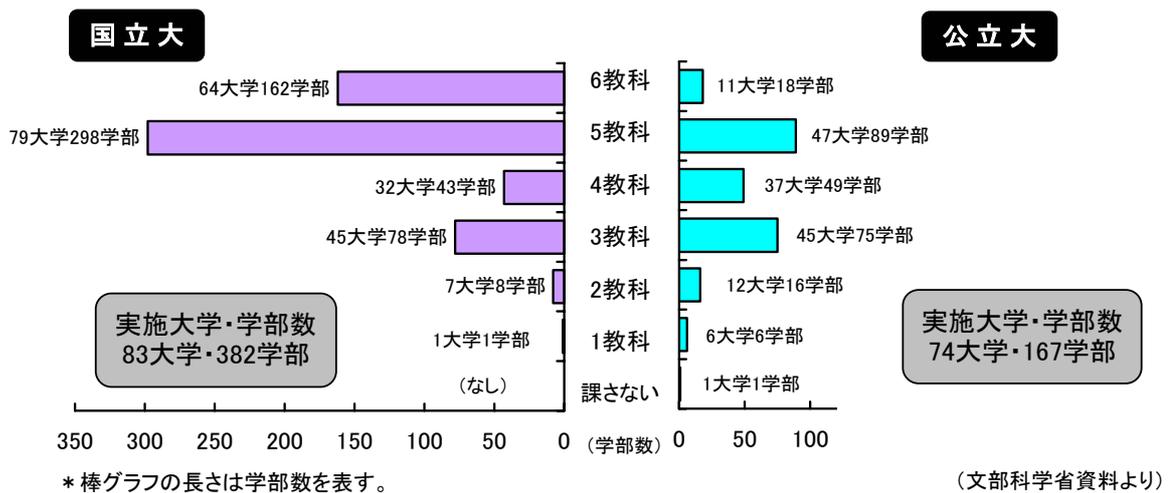
①文系型	国語+地歴+公民+数学(2)+理科(1)+外国語
②理系型	国語+「地歴・公民」から(1)+数学(2)+理科(2)+外国語
③混在型	国語+「地歴・公民・理科」から(3)+数学(2)+外国語、など

注.( )内の数字は科目数。

と は、それぞれ文系と理系学部で最も多い、標準型ともいえるタイプである。

上に掲げた 混在型は7科目であるが、この型には「地歴・公民・理科から3科目+数学2科目」や、「地歴・公民・理科・数学から5科目」のような教員養成系に多いタイプの他、「地歴+公民+理科2科目+数学1科目」や「地歴+公民+数学・理科から3科目」のように文系型に近い、科目数の少ないタイプもみられる。

## ●19年センター試験教科数&実施大学・学部数 (図1)



## センター試験で5教科7科目以上を課す大学・学部数 (表1)

区分	19年		18年		対前年増減		
	大学	学部	大学	学部	大学	学部	
国立大	77 (92.8%)	341 (89.3%)	77 (93.9%)	342 (89.8%)	±0	-1	
公立大	32 (43.2%)	62 (37.1%)	32 (44.4%)	60 (36.4%)	±0	+2	
合計	109 (69.4%)	403 (73.4%)	109 (70.8%)	402 (73.6%)	±0	+1	
全体	国立大	83	382	82	381	+1	+1
	公立大	74	167	72	165	+2	+2
	合計	157	549	154	546	+3	+3

注.( )は、全体数に対する割合。

(文部科学省資料より)

センター試験で5教科7科目以上を課す募集人員(表2)

区分	19年	18年	対前年増減	
国立大	74,286 (77.3%)	74,789 (77.7%)	- 503	
公立大	6,165 (24.5%)	5,822 (23.7%)	+ 343	
合計	80,451 (66.4%)	80,611 (66.7%)	- 160	
入学定員	国立大	96,066	96,226	- 160
	公立大	25,138	24,606	+ 532
	合計	121,204	120,832	+ 372

注.( )は、入学定員に対する割合。(文部科学省資料より)

### 5教科7科目以上から、科目を減らす大学・学部も

各大学・学部(学科)の19年セ試の入試教科・科目数をみると、国立大に比べこれまで比較的軽量であった公立大で科目増のケースがみられる。一方で、国立大では5教科7科目以上から科目数を減らすケースが、教員養成系(主に芸術・体育)や工学系を中心とした一部の学科・専攻に目立つ。国立大学法人化で大学運営の自由度が高まり、学生募集の個性化が求められる中、オールラウンド型より入学後の専門性にシフトした科目対応といえよう。ただし、「理工離れ」による慢性的な志願者減に悩む工学系の場合は、5教科7科目では負担が大きい受験者層の確保を狙った志願者確保策ともいえる。

以下、セ試の教科・科目数を軽減する国立大学・学部等と、増加する公立大学・学部等の主な事例を紹介する。

[国立大で科目減] 弘前大 - 理工<物質創成化学>(後)5教科7科目(以下、5-7と略)  
3-5、同<電子情報工>(後)5-7 4-4 / 山形大 - 地域教育文化<造形芸術>(前)6-7→4(5)-6、工A<物質化学工>(後)5-7 3-5 / 信州大 - 人文(前)6-7→3-3(4) / 和歌山大 - システム工<精密物質>(後)5-7→4-6 / 鳥取大 - 地域<地域環境>(前・後)5-7→5-6、同<地域政策>(後)5-5→3-3 / 愛媛大 - 法文<昼・夜;人文>(後)5(6)-7→4(5)-5、教育<音楽文化>(前・後)5(6)-7→3-3 / 高知大 - 理<自然環境科学>(前)5-7→4-5、同(後)5-7→3-4 / 福岡教育大 - 教育<共生社会=国際共生>(前・後)6-7 3-3、同<生涯スポーツ芸術>(前・後)5(6)-7→3-3、<環境情報=情報>(前・後)5-7→4-5 / 長崎大 - 教育<学校教育=中学美術>(前)6-7→5-5、同<芸術文化>(前)6-7→4-4、など。

[公立大で科目増] 岩手県大 - 看護(前・後)5-5 5-7 / 群馬県民健康科学大 - 診療放射線(前)4-4 4-5 / 石川県大 - 生物資源環境(前・後)3-3 4-4 / 大阪市大 - 法1・2部(前・後)5-6 6-7、など。

### 医<医>の理科3科目化

#### 5大学の医学科で物・化・生3科目必須

国立大の理系ではほとんどが理科2科目となっている中で、医学系の受験生も物理・化学の2科目受験が多い。そのため、生物を履修しない(学習しない)で医学部などの生命科学系に進学する学生が多く、問題視されていた。医学系などでセ試の生物を必須とした

場合、科目選択の幅が狭まらないように、16年セ試から理科の試験枠が2コマから3コマに拡大され、物理・化学・生物の理科3科目受験が可能となった。18年入試から、京大・阪大・佐賀大・京都府医大・大阪市大のいずれも医学科で、それぞれ物理・化学・生物の3科目を含む、5-8という“重量入試”になり、19年入試も継続する。

なお、九大-医<医>、奈良県医大-医<医>でも、20年度からセ試の理科を3科目化(物理・化学・生物各必須)する予定。

#### 実質上の理科3科目化

セ試で理科3科目必須としないまでも、実質的には理科3科目の学習が必要となる大学もある。北大-医<医>(前)では、セ試は物理・化学・生物から2科目選択であるが、2次試験(2科目必須)で受験しない科目を含めることから、実質的には3科目となる。

#### <セ試個人成績の開示>

大学入試センターでは、セ試の個人成績(受験科目別。国語は出題分野別、英語は「筆記」と「リスニング」別)の本人開示を実施している。

出願時の志願者本人の希望に応じて、19年4月16日(月)以降に書留郵便で通知する。

申込方法は、「志願票(提出用)」に成績通知の希望を記入し、成績開示手数料(800円)を検定料と併せて18年9月1日(金)~10月13日(金)までに払い込む。

### 一般入試

### 2次試験

国立大「前期募集」は77.7%と、2年間で3ポイントアップ。  
セ試リスニング利用で、2次リスニングは激減。

#### <入試日程>

19年国公立大2次試験は、19年1月29日(月)~2月6日(火)まで出願受付が行われ、前期(2月25日<日>から)・中期(3月8日<木>以降;一部の公立大のみ)・後期(3月12日<月>以降)の各日程で実施される。

なお、公立の国際教養大は、独自の別日程で実施する。

#### <「分離分割方式」の弾力化>

国公立大の2次試験は、公立大の中期を除き、同一募集単位の入学定員を前期と後期とに振り分ける「分割」と、前期の合格者が入学手続きを完了してから後期試験を行うという、前・後期試験の「分離」とを組み合わせた「分離分割方式」によって実施されている。この方式では、前期に合格して入学手続きを完了した者は、後期(公立大中期も含む)に出願、受験しても入学の意志がないとみなされて合格とならない。ただ、教員養成系の専攻・コースなどのように募集人員の少ない場合や実技を主とする芸術系、体育系では「前期のみ」や「後期のみ」の募集も従来から「例外措置」として認められてきた。

しかし毎年、前期募集人員の占める割合が高まっていく中で、特に国立大からは前期集中化への要望が強まり、国大協は18年入試から、「分離分割方式を維持しつつ、学部単位でみて推薦入試やAO入試を前提に、前期のみや後期のみの募集も可能」とする分離分割方式の弾力化を打ち出した。

公立大(公立大学協会)も、この弾力化の措置に準じている。

### 「前期集中型」の急増

このような分離分割方式の弾力化を受け、18年入試では国立大で、従来の「例外措置」に加え、「前期のみ」募集に移行するところが急増した。

19年入試では「前期集中化」がさらに加速。京大が医学部保健学科を除く全学で後期を廃止し「前期のみ募集」に移行したのをはじめ、東北大・名大・九大など難関校や医学部医学科で、一般選抜を前期のみに切り替える学部・学科が続出した。こうしたところでは、後期の募集人員を前期だけに振り向けず、推薦・AO入試の新規実施や募集枠拡大を伴うケースが多い。

19年入試で「前期のみ」または「後期のみ」募集を行う大学・学部等は表3の通り。このうち、新たに「前期のみ」「後期のみ」に移行した学部・学科は太字で示した。

この他の日程変更では、北海道教育大 - 岩見沢<芸術=音楽・美術>、岡山大 - 法<昼>・薬などが「前期のみ 前期・後期実施」に変更。北海道教育大 - 岩見沢<芸術=芸術文化>が「後期のみ 前期・後期実施」に変更。そして、「夜間課程」から「昼間課程」に移行する奈良県大 - 地域創造が、「中期のみ」から「前期・中期」の2日程実施に変更した。

#### 募集人員はさらに前期へシフト

日程変更を伴わない場合でも、後期の募集人員を前期にシフトする傾向は相変わらず強い。特に、京都工織大が定員配分を「後期重視」から「前期重視」へ移行したのが注目される。

一方で、地方の医学部医学科で後期の募集枠を拡大し、優秀な人材を確保しようという動きもみられる。前・後期の定員配分が大きく変わった主な大学・学部等は次の通り。数字は前期：後期の募集人員、かっこ内は前期の占有率で、ともに18年 19年を示す。

[前期ウェート増] 室蘭工大 - 工<昼>363 : 153 371 : 128 (70% 74%) / 静岡大 - 人文<昼>243 : 107 275 : 83 (69% 77%) / 京都工織大 - 工芸科学 171 : 389 356 : 207 (31% 63%) / 阪大 - 医<保健> 120 : 38 133 : 25 (76% 84%) / 神戸大 - 海事科学 106 : 53 119 : 40 (67% 75%) / 奈良教育大 - 教育<学校教育> 114 : 33 124 : 18 (78% 87%) / 公立はこだて未来大 - システム情報科学 135 : 45 135 : 25 (75% 84%) / 兵庫県大 - 環境人間 60 : 60 100 : 20 (50% 83%) / 島根県大 - 総合政策 80 : 30 80 : 20 (73% 80%) / 北九州市大 - 外国語<昼>132 : 25 162 : 25 (84% 87%) 経済<昼>120 : 50 120 : 20 (71% 86%) など。

[後期ウェート増] 北見工大 - 工 202 : 145 180 : 151 (58% 54%) / 秋田大 - 医<医> 55 : 10 45 : 20 (85% 69%) / 岐阜大 - 医<医> 55 : 10 30 : 35 (85% 46%) / 愛媛大 - 医<医> 47 : 20 40 : 25 (70% 62%) / 九州工大 - 工 300 : 163 245 : 190 (65% 56%) など。

**「前期日程」のみ募集**

【国立大】北海道教育大 - 旭川(教員養成 = 音楽・保健体育) / 小樽商大 - 商<夜> / 弘前大 - 医(医) / 岩手大 - 教育(学校教育 = 中学言語・社会系、理数・生活・技術系、実技系、生涯教育 = スポーツ教育) / 東北大 - 医(医)、歯、工、農 / 宮城教育大 - 教育(中等 = 音楽・美術・保健体育・技術・家庭) / 山形大 - 地域教育文化(文化創造)、工B(物質化学工・機械システム工・電気電子工・応用生命システム工) / 筑波大 - \*人間学群、\*生命環境学群(\*地球学類)、\*理工学群(\*数学・\*物理・\*化学類)、医学群(医学・看護・医療科学類)、体育専門学群、芸術専門学群 / 筑波技術大 - \*産業技術、\*保健科学 / 宇都宮大 - 国際、教育(実技系)、工(情報工) / 埼玉大 - 教育(教科教育 = 国語・社会・美術・保健体育) / 千葉大 - 文(国際言語文化)、教育(小学校・養護教諭・生涯教育、前記以外)、看護 / 東京学芸大 - 教育(初等教育 = 音楽・美術・家庭・\*英語・\*幼児教育、中等教育 = 国語・音楽・美術・保健体育・家庭・技術・英語・書道、\*特別支援教育、\*看護教育、\*人間社会科学 = カウンセリング、国際理解教育 = 国際教育・多言語多文化、芸術スポーツ文化 = 美術・書道) / 東京芸大 - 音楽 / 東京工業大 - 第1類 / お茶の水女大 - 文教育(芸術・表現行動科学 = 舞踊教育学) / 横浜国大 - 教育人間科学(学校教育) / 新潟大 - 医(医) / 長岡技科大 - 工 / 金沢大 - 教育(学校教育 = 音楽・美術・保健体育) / 福井大 - 教育地域科学(理数教育、芸術・保健体育 = 美術、保健体育) / 山梨大 - 医(看護)、工(\*特別教育プログラム) / 岐阜大 - 応用生物科学(獣医) / 静岡大 - 教育(発達教育 = 教育心理・教育相談・幼児教育、障害児教育、教科教育 = 社会科・音楽・保健体育・技術、生涯教育 = 国際理解教育、芸術文化 = 書文化) / 名大 - 教育、法、経済、情報文化、工 / 愛知教育大 - 教育(初等教育 = 幼児教育・教育科学・\*情報・音楽・保健体育・\*英語、中等教育 = 教育科学・国語書道・社会・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語) / 名古屋工大 - 工2部 / 豊橋技科大 - 工 / 三重大 - 教育(学校教育 = 国語・美術・技術・家政・幼児教育・学校教育、生涯教育 = 消費生活科学、人間発達科学) / 滋賀医大 - 医 / 京大 - 総合人間、文、教育、法、経済、理、医(医)、薬、工、農 / 京都教育大 - 教育(技術・家庭・書道・音楽) / 大阪教育大 - 教育1部(小学校 = 芸術・体育系、中学校 = 教育科学・国語・英語・理科・技術家庭・音楽・美術書道、教養 = 欧米言語文化・スポーツ) / 神戸大 - 発達科学(人間行動) / 和歌山大 - 教育(教科教育 = 実技系) / 島根大 - 教育(学校教育 = 音楽)、医(医) / 岡山大 - 教育、理(数学、数学以外)、環境理工(環境数理、環境デザイン工) / 山口大 - 教育(学校教育 = 教科教育国語以外) / 鳴門教育大 - 学校教育(小学校 = 音楽・図画工作・体育・技術・家庭、中学校 = 音楽・美術・保健体育・技術・家庭) / 愛媛大 - 教育(学校教育 = 保健体育、芸術文化 = 造形芸術) / 福岡教育大 - 教育(初等教育 = 学校臨床教育・幼児教育、中等教育 = 国語・音楽・美術・家庭・技術・書道) / 九大 - 薬 / 長崎大 - 教育(学校教育 = 中学校国語・社会・音楽・美術・保健体育・英語、情報文化教育 = 芸術文化) / 熊本大 - 教育(中学校 = 技術以外、養護教諭、地域共生、生涯スポーツ福祉、薬 = 創薬・生命薬科学、工 = 数理工) / 宮崎大 - 教育文化(学校教育 = 中学校・障害児教育、生活文化 = 芸術文化) / 鹿児島大 - 教育(学校教育 = 数学・理科・家政) / 鹿児島大 - 体育 / 琉球大 - 教育(学校教育 = 国語・音楽・美術・保健体育・技術・家政・英語・教育・学校心理、生涯教育 = 日本語・生涯健康)

【公立大】札幌市大 - \*看護 / 名寄市大 - \*保健福祉(栄養) / 青森県保健大 - 健康科学(理学療法) / 岩手県大 - ソフトウェア情報 / 山形県保健医療大 - 保健医療 / 会津大 - コンピュータ理工 / 群馬県県民健康科学大 - 看護、診療放射線 / 神奈川県保健福祉大 - 保健福祉(リハビリテーション) / 横浜市大 - 国際総合科学、医 / 愛知県芸大 - 美術 / 京都市芸大 - 美術 / 京都府大 - 文(文・国際文化)、人間環境 / 大阪市大 - 生活科学 / 大阪府大 - 総合リハビリテーション / 岡山県大 - デザイン / 広島市大 - 芸術 / 香川県保健医療大 - 保健医療(臨床検査) / 愛媛県医療技術大 - 保健科学(臨床検査) / 高知女大 - 生活科学 / 北九州市大 - 外国語<夜>、経済<夜>、文<夜>、法<夜> / 沖縄県芸大 - 美術工芸、音楽

**「後期日程」のみ募集**

【国立大】東京学芸大 - 教育<芸術スポーツ文化 = 音楽> / 東京芸大 - 美術 / 横浜国大 - 工<物質工 = \*バイオコーラス> / 大阪教育大 - 教育1部<中学校 = 保健体育> / 福岡教育大 - 教育<中等教育 = 実践学校教育>

【公立大】愛知県芸大 - 音楽 / 京都市芸大 - 音楽

太字は19年新規分。\*印は改組・新增設、新規分離分割等の学部・学科。

## < 2次試験の科目増、負担増 >

19年の2次試験で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図2に示した。国立大、公立大とも学力試験(学科試験)を課さないところが多い。これは、後期日程で学力試験を課さず、小論文や面接、実技などで選抜しているところが多いためである。ただ、一般入試の募集人員の8割近くを占める前期試験では、2~3教科を課す学部・学科が多い。

19年入試は新課程入試2年目ということもあり、セ試・2次ともに、学部全体に及ぶ大規模な変更は少ない。

その中で、京都工繊大 - 工芸科学が前述の定員配分の変更に伴い、全学で「前期 = 科目増、後期 = 科目減」としたのが注目される。同大工芸科学部の各課程における日程別の科目等の変更は次の通りである。 < >内は、18年の科目等を示す。

前期 = 「応用生物<総合問題>、生体分子工・高分子機能工・物質工<小論文>、電子システム工・情報工・機械システム工<課さない>、デザイン経営工<面接> 数学・理科・外国語 / 造形科学<課さない> 数学・理科または総合問題・外国語・実技 / 先端科学技術(夜間)<課さない> 数学・外国語」。

後期 = 「応用生物<数学・理科・外国語> 総合問題 / 生体分子工・高分子機能工・物質工<数学・理科・外国語> 小論文 / 電子システム工・情報工・機械システム工<外国語> 除外 / デザイン経営工<数学・理科・外国語> 小論文・面接 / 造形科学<数学・理科または総合問題・外国語・実技> 総合問題」。

この他、ほぼ学部全体(医は学科別)で「科目増・負担増」または「科目減・負担減」となる主な大学・学部は、次のようなところである。

### 科目増・負担増

[国立大] 岩手大 - 人文社会科学(前) = 「数学・外国語から1」 「国語・数学・外国語から2」 / 茨城大 - 理(後) = 化学など4学科で小論文追加 / 新潟大 - 医<医>(前) = 面接追加 / 岐阜大 - 医<医>(後) = 小論文・面接 数学・理科・外国語、応用生物科学(獣医以外:後) = 小論文追加 / 鳥取大 - 医<医>(前) = 面接追加、など。

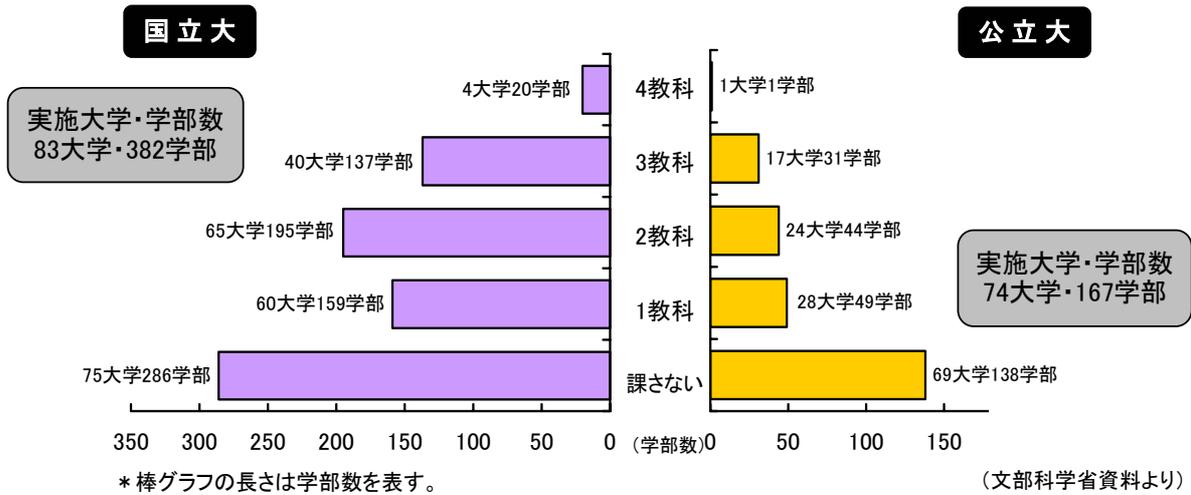
[公立大] 名古屋市大 - 医(前) = 面接追加 / 大阪府大 - 総合リハビリテーション(前) = 小論文追加、など。

### 科目減・負担減

[国立大] 千葉大 - 看護(前) = 理科・外国語 面接 / 京大 - 医<保健>(後) = 数学・理科・外国語を除外 / 奈良女大 - 生活環境(住環境以外:後) = 小論文を除外 / 鳥取大 - 医<医>(後) = 小論文除外、など。

[公立大] 公立はこだて未来大 - システム情報科学(後) = 数学・外国語・「小論文または実技」を除外 / 岩手県大 - 看護(前) = 小論文を除外 / 山形県立保健医療大 - 保健医療(前) = 小論文を除外 / 愛知県大 - 外国語<昼・夜>(後) = 小論文(英米は外国語)を除外 / 兵庫県大 - 工(後) = 小論文を除外、同 - 環境人間(後) = 総合問題を除外、など。

●19年2次試験教科数&実施大学・学部数 (図2)



< 2次リスニングは激減 >

セ試英語に18年からリスニングテストが導入されたのに伴い、2次試験でリスニングテストを課す国公立大は、17年52大学129学部、18年34大学68学部、19年25大学45学部と、大幅に減っている。特に実施学部数でみると、国立大は17年113学部、18年56学部、19年35学部と、わずか2年間で69.0%減の激減ぶりとなっている(図3・表4参照)。

2次試験でリスニングテストを廃止する大学・学部は、宇都宮大 - 国際・農 / 山梨大 - 教育人間科学 / 福井大 - 教育地域科学 / 阪大 - 経済・基礎工 / 長崎大 - 教育・経済・医・歯・薬・環境科学 / 熊本大 - 文・教育・法・医・工 / 宮崎大 - 教育文化・農、など。

一方、岩手大・秋田大・東京外語大・一橋大・岐阜大・京大・大阪外語大・琉球大・愛知県大・神戸市外語大・北九州市大・熊本県大などでは、セ試のリスニングテストを利用するとともに、2次試験でも従来どおり課している(一部学部・学科を含む)。

なお、東大はセ試のリスニングテストを利用せず、前期の2次試験で聞き取り試験を従来通り実施する。

< 数学・理科の出題範囲 >

数学A・B・Cの項目指定

数学基礎はセ試同様、2次試験でも除外されており、数学の出題対象科目は数学、数学、数学、数学A、数学B、数学Cの6科目となる。そのうち、文系では数学、数学A・Bまで、理系は数学、数学A・B・Cまでというケースが多い。

数学Aは「平面図形」「集合と論理」「場合の数と確率」の3項目すべて必修であることから、出題も3項目とも指定する大学・学部がほとんどだ。ただ、秋田大 - 教育文化・医・工学資源などでの「場合の数と確率」のみ指定 / 山形大 - 工などでの「平面図形」のみ指定 / 群馬大 - 社会情報などでの「平面図形」「集合と論理」のみ指定 / 公立はこだて未来大 - システム情報科学、前橋工科大 - 工などでの「平面図形」除外などもみられる。

数学B、数学Cについては、ともに4項目から2項目を選択履修する場合がほとんどで、各大学・学部の出題項目をみると、数学Bでは「数列」「ベクトル」、数学Cでは「行列とその応用」「式と曲線」を指定しているケースがほとんどである。

ただ、例外としては、数学Bでは、京大の「数列」「ベクトル」「数値計算とコンピュータ」(一部除外分野あり)の3項目指定、数学Cでは、山形大-工の「行列とその応用」のみ/浜松医大の「確率分布」を含む3項目から2項目の学習者に対応して出題/滋賀医大の「行列とその応用」「確率分布」/京大-文系での「行列とその応用」「確率分布」(確率の計算のみ)、理系での「行列とその応用」「式と曲線」「確率分布」(確率の計算のみ)/鹿児島大-理・医・工の4項目から1題選択、などがある。

新課程数学では従前に比べ出題範囲やレベルが限定されてくることなどから、京大や奈良女大では教科書の「発展」事項(京大では過去の学習指導要領も含め)であっても、高校生が論理的に思考して理解できる程度の内容は出題範囲とする旨の注記を付している。

#### 理科の項目指定

理科の2次試験科目としては、理科基礎の出題はないが、理科総合はごく一部に見られる。理科総合Bが信州大-理<地質科学>(後;選択)で出題されている。なお、兵庫教育大-学校教育では、セ試の理科総合A及びBを2次試験の選択科目として利用している。

ほとんどは、物理・、化学・、生物・、地学・を出題対象としている。

各科目は、全項目必修であるため出題は全範囲となるが、各科目は必修項目と選択項目とに分かれている。例えば、物理では「力と運動」「電気と磁気」は必修、「物質と原子」「原子と原子核」はいずれかを選択となっている。そのため、出題方法も一様ではない。

出題方法をみると、「必修項目+選択項目」からの出題が一般的で、物理では必修項目に加え、選択項目の「物質と原子」のうち、「原子、分子の運動」を含めるところが多く、東大-理科類、金沢大-工、熊本大-医・薬・理・工などでは、熱力学を範囲に含めている。

しかし多くの場合、選択項目からの出題では、受験生の履修歴と公平性の観点から、何らかの配慮がみられる。

例えば、「生物」の選択項目から出題する場合は、選択項目のいずれかを履修していない生徒のいることを考慮し、背景を説明した上で総合問題として出題する、選択問題にする、などの配慮を行う(東大の生物)/「選択項目として扱われている内容については、出題の素材として用いることはあるが、単に知識を問うのではなく、基本的概念の理解・考え方を問うような出題をし、選択項目を学習しなかった受験者に対しても不利が生じないよう配慮する」(愛知教育大の理科各科目)/化学の選択項目である「生活と物質」「生命と物質」についても、「相互に関連した問題を出題範囲とする」(阪大の化学)/物理の必修項目及び選択項目の「原子、分子の運動」(熱力学を含む)を出題範囲とし、それ以外の内容については、「その知識を前提とした出題はしないが、背景を十分説明した上で、題材として用いることもある」(九大の物理)といった注記を付記している。

#### < 科目での受験可能大学 >

次のような大学・学部(前)では、2次試験での理科科目の受験が可能である。

宮城教育大 - 教育<中等教育=理科> / 秋田大 - 教育文化<人間環境> / 宇都宮大 - 農<森林科学、農業環境工> / 東京学芸大 - 教育<環境総合科学=環境教育> / 愛知教育大 - 教育<初等・中等教育=数学・情報> / 奈良教育大 - 教育<学校教育=理数・生活科学、総合教育=物質科学> / 福岡教育大 - 教育<初等=数学・理科> / 大分大 - 教育福祉科学<教科教育、情報教育、生活環境福祉(環境)>、など。

#### < 学外試験場開設が増加 >

16年度の国立大学法人化の後、私立大さながら、学外試験場を設置する大学・学部が増加傾向にあるが、19年は特に国立大における新設が目立つ。

例えば、室蘭工大(前期)が札幌・仙台、北見工大(後期)が大阪、山形大 - 工(前期)が名古屋、宮崎大 - 教育文化(前期)が横浜に、大学として初めて試験場を開設する。また、既に学外試験場を設けている国公立大でも、弘前大 - 教育(前)・医<保健>(前)が八戸に、信州大 - 経済・人文(前)が大阪(高槻市)に、高崎経大 - 地域政策(後)が金沢・岡山に、兵庫県大 - 工(前)が大阪に試験場を増設する。

一方、18年開設の札幌市大では、学外試験場(東京)の実施を取りやめる。

#### < 募集人員 >

19年に入試を実施する国公立大は、157大学 549学部である。内訳は、国立 83大学 382学部、公立 74大学 167学部である。

推薦入試などの特別選抜やAO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜及び公立の国際教養大別日程入試を除いた、一般入試の総募集人員は100,719人(国立大 81,853人、公立大 18,866人)で、18年(『入学者選抜要項』記載の募集人員)より301人(0.3%)の減少となった(表5参照)。

分離分割方式の前期と後期の募集人員の割合をみると、前期は平成2年の77.5%から9年(前回の新課程入試初年度)の72.1%まで減少した後、10年からは毎年上昇を続け、19年は前期=78.0%(18年76.6%)、後期=22.0%(同23.4%)となっている。特に国立大の前期は、16年=74.3% 17年=74.7% 18年=76.1% 19年=77.7%と、17年からの2年間で3ポイントも一気にアップし、18年からの「前期集中型」の急増ぶりをうかがわせている(表4参照)。

#### < 学部・学科の新設・改組等 >

前述の総募集人員(100,719人)は一般入試のみであるが、推薦・AO入試なども含めた入学定員は国立大 96,066人、公立大 25,138人の合計 121,204人で、国立大は18年より微減、公立大はやや増加である。

ただ、国立大の入学定員については、19年度文部科学省概算要求(予算)に絡み、18年8月末に文部科学省より「19年度国立大学の入学定員について(予定)」が別途発表されている。従って、各大学・学部(学科等)の入学定員は、今後変更される場合がある。

予定によれば、国立大の入学定員は、学科の新設・改組、入学定員の改訂、夜間学部の募集停止により、18年に比べ差し引き115人(0.1%)減員の96,278人である。

筑波大・宮城教育大で大規模改組

国立大では、筑波大が現行の「3学群・4専門学群」を「7学群・2専門学群」に再編

する。第一～第三のいわゆる“ナンバー学群”を廃止し、学問的に近い複数の学類をまとめ、教育・研究内容がイメージしやすい名称の学群(人文・文化、社会・国際、人間、生命環境、理工)を設置。新たに8学類を増設するため、学類数は15→23に増える。この他、学科増設は、和歌山大-経済(観光)/徳島大-歯(口腔保健)/九大-医(生命科学)/琉球大-法文(産業経営)、など。

学科の改組では、宮城教育大が教員免許状の取得を卒業要件としない「生涯教育総合課程」(いわゆる「ゼロ免課程」)を廃止し、教員養成課程のみに特化する。教員養成課程の募集人員は「前期126人→213人、後期39人→87人、推薦30人→45人」に増員。さらに、愛知教育大でも教員養成課程の定員を30人増員する。教員の需要拡大を視野に、「ゼロ免課程」の定員を廃止・削減し、教員養成課程の定員を増やす施策として注目される。この他、山梨大-工では大学院との6年間一貫教育を行う「特別教育プログラム」(ワイン科学・クリーンエネルギーの2コース)を新設する。

#### 2部・夜間主コースが縮小

入学定員の改訂では、2部・夜間主コースの募集停止や定員減が目立つ。横浜国大-工2部/岐阜大-工<夜>/和歌山大-経済<夜>が募集停止。また、山形大-工<夜>では「5→4学科:120人→80人」、群馬大-工<夜>でも「5→1学科:100人→30人」の学科統合・定員減が予定されている。

さらに公立大でも、奈良県大が従来の「夜間課程」から「昼間課程」に移行(定員は100→150人に増員)。また、前橋工科大で従来の3学科を6学科に改組(定員を240→262人に増員)するが、夜間主コースは縮小(90人→40人)する。勤労学生の減少など本来の存在意義が失われつつある現状に加え、志願者減による定員割れ等もあり、夜間教育の場は今後も縮小を余儀なくされよう。

公立大では上記以外に次の改組が予定されている。

名古屋市大-経済=「2→3学科」に改組し、定員増(200→230人)/広島市大-情報科学=「4→3学科」に改組/山口県大=「4→3学部」に改組(生活科学部を廃止、看護学部→看護栄養学部に変更)。

なお、入学定員の変更等(予定)の詳細は、今後各大学から発表される『募集要項』(18年12月中旬までに配付)を参照されたい。

#### < 2段階選抜 >

2段階選抜の実施予告大学・学部数は、国公立大全体では18年より1大学5学部減の54大学170学部である。廃止や新規実施など、18年と変わる大学・学部(学科)は次の通り。

[廃止]...山形大-工A<物質化学工>(前)/千葉大-工A<デザイン工>(前)、教育<生涯教育>(前)/阪大-医<保健>(後)/鳥取大-医<医、生命科学>(後)/京都府大-文(前・後)、福祉社会(前・後)、人間環境(前)、農(前)

以上のほか、後期日程の募集取り止めに伴う廃止は省略。

[倍率緩和]...千葉大-工A<デザイン工>(後)<約7→8倍>/東京工業大-全学(前)<約4→5倍>・(後)<約6→10倍>/島根大-医<医>(前)<7→8倍>/愛媛大-医<医>(前)<約8→10倍>/長崎大-医<医>(前)<約3→6倍>/首都大学東

京 - 都市教養<人文・社会、法、経営>(前)<約 6 10 倍>、都市教養<理工>・都市環境(前)<約 6 倍 8 倍>/名古屋市大 - 薬(中)<約 15 17 倍>

[基準変更]...京大 - 総合人間<文系>(前)<800 点満点中 550 点 定員の約 4.0 倍>、総合人間<理系>(前)<900 点満点中 620 点 定員の約 4.0 倍>/九大 - 理(前)<セ試 60%以上 募集人員の約 10 倍>

[新規実施]...お茶の水女大 - 理<化学>(後)<約 10 倍>/札幌市大 - 看護(前)<5 倍>/埼玉県大 - 保健医療福祉(後)<15 倍>/奈良県医大 - 医<看護>(後)<6 倍>

[倍率引き締め]...秋田大 - 医<医>(前)<約 6 5 倍>・(後)<約 10 倍 7 倍>/京大 - 理(前)<900 点満点中 600 630 点>、経済<論文型>(前)<約 5 3.5 倍>/高知大 - 医<医>(前)<約 10 8 倍>/名古屋市大 - 医(前)<約 8 4 倍>

### < 2 次試験の出願予測 >

国公立大 2 次試験への出願動向は、セ試の平均点アップ・ダウンに強く影響される。平均点アップだと“強気出願”となり、国公立大や難関大(学部)への出願増がみられ、逆に平均点ダウンだと、“弱気出願”で科目数の少ない地元公立大や私立大への流出傾向がみられる。新課程入試初年度の 18 年は、文系・理系ともセ試平均点の大幅アップにより、国公立大志願者数(延べ数)は 50 万 5 千人と、微減(前年比 0.5%減)に留まった。

19 年はセ試平均点のダウンも予測され、大学受験生数の減少等を勘案すると、19 年の国公立大志願者数は、18 年より 1 万 5 千人(3%)程度減って 49 万人前後とみられる。

注) 次頁に、「国公立大 入学者選抜概要の推移」(表 4)を掲載

●国公立大 入学者選抜概要の推移(学部数／前・後期日程は募集人員割合) (表4)

内容		平成 2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	
入学者選抜実施学部		444	451	453	460	474	488	500	506	517	530	542	547	550	551	550	549	546	549	
方式・ 日程	分離分割方式	158	196	241	310	348	378	392	466	475	520	532	537	540	540	540	536	533	537	
	前期日程(%)	77.5	76.5	74.8	73.4	73.4	73.1	72.9	72.1	72.3	72.7	73.5	73.9	74.4	74.5	74.8	75.4	76.6	78.0	
	後期日程(%)	22.5	23.5	25.2	26.6	26.6	26.9	27.1	27.9	27.7	27.3	26.5	26.1	25.6	25.5	25.2	24.6	23.4	22.0	
	連続方式A日程	151	141	130	115	110	102	97	13	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	連続方式B日程	141	119	93	55	41	31	29	12	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	中期(C日程)	10	12	12	12	13	12	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
センター 試験	6教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	7	7	4	5	6	6	6	144	163	176	180	
	5教科を課す	379	370	366	360	367	373	376	395	399	403	405	407	408	410	386	383	388	387	
	4教科を課す	57	69	80	96	107	115	119	139	146	150	163	169	170	165	109	97	88	92	
	3教科を課す	63	91	110	142	162	172	178	193	195	206	221	222	218	215	170	162	151	153	
	2教科を課す	8	12	12	18	30	35	36	38	41	47	50	50	47	45	39	30	26	24	
	1教科を課す	1	1	1	2	3	3	4	5	5	7	6	8	8	7	6	7	7	7	
	課さない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
2次 試験	4教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	22	22	22	21	21	21	21	
	3教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	148	154	156	164	169	166	163	171	168	
	2教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	249	250	251	251	254	257	254	249	239	
	1教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	223	223	218	216	217	213	213	214	208	
	課さない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	436	445	448	453	453	448	443	416	424	
選抜 方法等	一般入 試	小論文	204	219	225	239	241	254	259	289	306	316	332	330	333	334	336	330	313	300
		総合問題	12	16	20	28	37	37	42	58	64	76	83	87	87	89	93	90	82	84
		面接	107	110	113	127	144	160	159	196	210	225	235	243	243	244	251	255	248	245
		実技検査	70	71	73	73	74	75	76	78	78	78	78	78	80	80	79	77	79	80
		リスニング	52	52	55	59	63	64	64	90	100	103	124	127	127	132	131	129	68	45
		学力試験を課 さず小論文、 面接等で選抜	187	220	246	295	319	339	349	406	415	436	445	448	453	453	448	443	416	424
	特別 選抜	推薦入試	232	245	253	264	284	302	310	330	344	369	389	398	398	402	406	409	401	406
		内「セ試」課す	107	106	105	106	107	111	113	118	118	122	125	123	123	122	119	118	121	126
		内「セ試」免除	139	154	164	178	201	222	228	246	263	291	321	337	341	343	350	356	349	354
		帰国子女	161	174	186	208	220	233	234	241	253	267	279	287	287	292	293	292	285	286
		中国引揚者 等子女	30	33	41	47	53	55	59	62	66	76	82	82	85	85	81	79	70	67
		社会人	37	42	45	57	69	84	87	107	119	133	149	169	170	179	179	181	182	186
	AO入試	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	32	58	73	86	101	121	136	
	専門高校・総合学 科卒業生選抜	—	—	—	—	—	—	1	6	12	20	21	21	21	21	20	20	20	18	
その他	2段階選抜 実施予告	249	254	240	228	222	222	220	210	204	205	200	189	185	185	183	177	175	170	

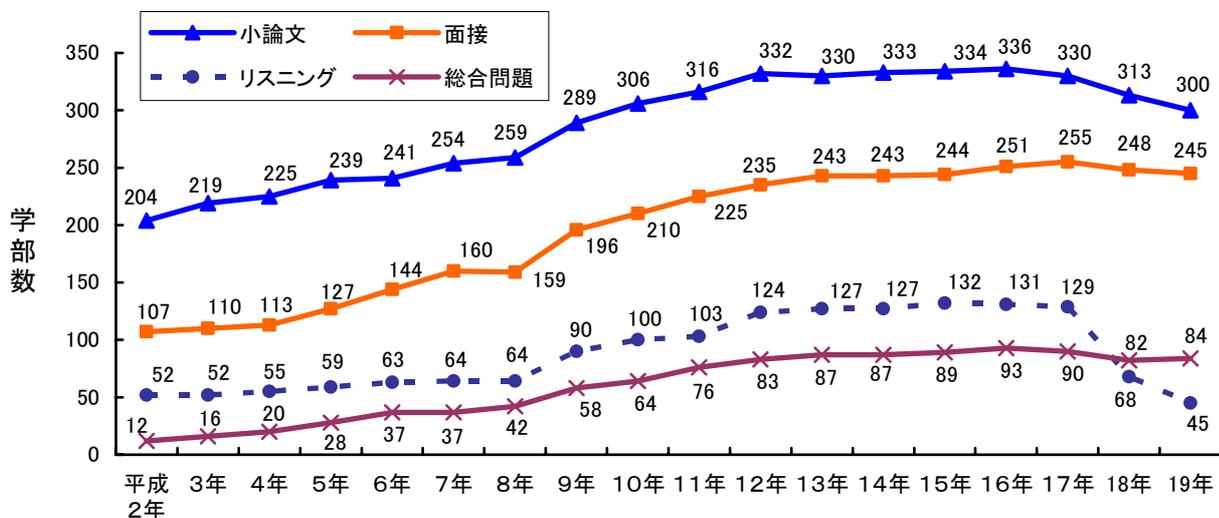
注1. 文部科学省の資料より。

注2. 「—」は実施していないか、公表されていないことを示す。

注3. 連続方式(A・B日程)は国立大8年、公立大10年まで実施。公立大C日程は10年まで(以降は中期日程)。

注4. 公立の国際教養大は16年より、独自の別日程入試を実施。

●国公立大で小論文、面接、リスニング、総合問題を課す  
学部数の推移（一般入試） (図3)



19年国公立大一般入試 / 地区別・日程別募集人員 (表5)

	前期(人)	後期(人)	中期(人)	合計(人)
北海道・東北	10,986	2,878	135	13,999
関東・甲信越	20,485	6,179	530	27,194
北陸・東海	10,227	3,060	419	13,706
関西	13,644	3,421	613	17,678
中国・四国	10,213	2,826	291	13,330
九州	11,474	3,338		14,812
全国合計	77,029	21,702	1,988	100,719
割合	78.0%	22.0%		
	76.5%	21.5%	2.0%	

注1. 19年「入学者選抜要項」(18年7月末現在)ベースによる。

注2. 人数は推薦入試等の特別選抜、AO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜及び公立の国際教養大別日程入試を除く。

注3. 割合の上段は前・後期日程内での割合、下段は総募集人員(前・後・中期日程)内での割合。

### 特別選抜 推薦入試 / 帰国子女等

一般選抜の「後期」縮小に伴い、「推薦」枠が拡大。  
富山大・山口大の医学科で「地域枠」導入。

#### < 推薦入試 >

名大 - 教育・情報文化などで推薦入試導入

推薦入試の実施大学・学部は143大学406学部となり、18年より4大学5学部増加した。前述の一般選抜の「前期集中化」に伴い、後期日程の募集停止や募集枠縮小の分を、推薦・AO入試へ振り向ける傾向が強まっている。推薦入試を新たに導入したり、募集枠を拡大したりする、主な大学・学部等は次の通り。

新規実施...室蘭工大 - 工(昼) <情報工> 7 人・ <応用化> 10 人 / 岩手大 - 農 <獣医> 3 人 / 茨城大 - 人文 <人文コミュニケーション> 30 人 / 埼玉大 - 教育 <養護教諭> 5 人 / 千葉大 - 文 <史学> 5 人、教育 <養護教諭> 10 人 / 富山大 - 医 <医> 8 人 / 信州大 - 理 <物質循環> 5 人 / 名大 - 教育 15 人、情報文化 16 人 / 愛知教育大 - 教育 <初等教育 = 情報> 3 人・ <同 = 音楽> 2 人・ <中等教育 = 音楽> 1 人・ <同 = 保健体育> 5 人 / 三重大 - 教育 <生涯教育 = 消費生活科学 2 人>・医 <看護> 5 人 / 徳島大 - 医 <保健 = 検査技術科学> 2 人、歯 <口腔保健\*> 5 人 / 長崎大 - 教育 <情報教育文化 = 芸術文化> 6 人 / 熊本大 - 理 10 人、工 <数理工> 2 人、など。

推薦枠拡大(学部合計)...北見工大 - 工<昼>63 79 人 / 弘前大 - 理工 48 60 人 / 東北大 - 農 10 15 人 / 秋田大 - 医 <保健> 20 25 人 / 茨城大 - 人文 <社会科学> 20 40 人 / 群馬大 - 工<昼>\*89 120 人 / 香川大 - 経済<昼>63 83 人 / 高知大 - 農\*36 46 人 / 九州工大 - 工 82 110 人 / 熊本大 - 工 88 104 人 / 鹿屋体育大 - 体育 60 70 人 / 公立はこだて未来大 - システム情報科学 48 60 人 / 宮城大 - 事業構想 60 75 人 / 名古屋市大 - 薬 10 20 人 / 大阪市大 - 生活科学 7 19 人 / 島根県大 - 総合政策 90 100 人、など(\*は改組する学部)。

廃止...推薦入試を廃止するのは、静岡大 - 理 <生物科学・地球科学> / 愛知教育大 - 教育 <初等教育 = 数学> / 岡山大 - 理 <物理> / 香川大 - 法<夜> / 愛媛大 - 教育 <芸術文化 = 造形芸術>、など。

このうち、静岡大・岡山大・愛媛大の場合は AO 入試へ移行する。また、岐阜大 - 工<夜>、神戸大 - 経営<夜>でも、募集停止に伴い推薦入試はなくなる。

#### 国立大「地元枠」推薦の拡大

##### 医学部の「地元枠」推薦

国立大の医学部医学科では、地方の医師不足解消策の一環として、大学所在地の出身者を対象とする募集枠を設けた推薦入試が拡大している。10 年に滋賀医大が初めて導入して以来、法人化後の 17 年は信州大・佐賀大の 2 大学、18 年には秋田大・鳥取大・愛媛大・香川大・宮崎大・鹿児島大など 9 大学が一挙に導入。そして 19 年入試では、富山大・山口大の医学部医学科で「地元枠」推薦を導入する。

また、既実施校でも、弘前大 - 医 <医> (15 人 20 人) / 信州大 - 医 <医> (5 人 10 人) / 三重大 - 医 <医> (5 人 10 人) / 島根大 - 医 <医> (5 人 10 人) の 4 大学で「地元枠」を拡大する。

なお、20 年度には新潟大 - 医 <医> でも、推薦で「地元枠」設置を予定している。

##### 教員養成系の「地元枠」推薦

「地元の教員は、地元の出身者で」といった要請を受け、国立大の教員養成系でも地元出身者を対象とする推薦入試がみられる。18 年には、北海道教育大 - 釧路 <教員養成> / 横浜国大 - 教育人間科学 <学校教育> / 滋賀大 - 教育 <学校教育、他> / 京都教育大 - 教育 <学校教育> / 奈良教育大 - 教育 <学校教育> で実施したが、19 年度は静岡大 - 教育で県内の過疎地域に対象を絞った推薦入試を導入する。

加えて、千葉大 - 教育で導入する AO 入試でも、県内枠(募集 50 人中 30 人)を設定した。

### < 帰国子女・社会人特別選抜 >

帰国子女特別選抜は 101 大学 286 学部(18 年 103 大学 285 学部)、社会人特別選抜は 98 大学 186 学部(同 95 大学 182 学部)である (表 4 参照)。

### A O 入試 / 専門・総合選抜

国立 6 大学、公立 2 大学が A O 入試を新規導入。  
専門・総合選抜は 12 大学 18 学部で実施。

#### < 国公立大の 34% が A O 入試実施 >

国公立大の A O 入試は 12 年に初めて導入されて以来、年々増加しており、19 年は国立 35 大学 105 学部、公立 18 大学 31 学部の計 53 大学 136 学部で実施される(表 4 参照)。

実施率も年々アップしており、18 年 19 年でみると、大学数で 29.2% 33.8% (国立大 = 35.4% 42.2%、公立大 = 22.2% 24.3%) となっている。国公立大の 3 分の 1 以上が実施、入学者の 50 人に 1 人が A O 入学者となる計算だ。

A O 入試の新規実施大学は、国立大では筑波技術大 - 保健科学 / 千葉大 - 教育 / 東京工業大 - 理 / 信州大 - 理 / 富山大 - 経済 / 大分大 - 経済の 6 大学 6 学部、公立大では青森県保健大 - 健康科学 / 都留文大 - 文の 2 大学 2 学部である。この他に、東北大 - 医(医)・農 / 広島大 - 薬 / 愛媛大 - 法文、教育と、大規模改組(前述)した筑波大 - 人文・文化、社会・国際、人間、生命環境、理工、情報の各学群(A O 実施は 2 学群増える)といった、既実施大学の新規導入学部も加えると、計 8 大学 15 学部増となる。

#### < 専門・総合選抜 >

専門高校や総合学科を対象とする専門高校・総合学科卒業生選抜は、国立 11 大学 15 学部、公立 1 大学 3 学部の計 12 大学 18 学部で実施(表 4 参照)。実施大学は 18 年より 2 大学減。